

《参考資料》

1 事業背景

静岡県（以下「県」という。）では、東静岡から名勝日本平、さらには三保松原に広がる地域に集積する学術、文化・芸術、スポーツ等の魅力を更に磨き高め、「場の力」を最大限に活かした地域づくりを進めるため、玄関口となる東静岡駅南口県有地（以下「計画地」という。）に、県の高い文化力の発信や、学び、にぎわいの場を生む「文化力の拠点」の形成に取り組んでいます。

これまでの「文化力の拠点」形成に向けた検討において、有識者会議等での議論を経て、平成27年3月に「“ふじのくに”の「文化力」を活かした地域づくり基本構想」を策定し、平成28年8月には「「文化力の拠点」基本計画（案）」を取りまとめ、平成29年9月には全館移転となる県立中央図書館を中心とする施設を先行整備し、その後、段階的に拠点の形成を進めていく方針を決定しました。

今後は、新県立中央図書館を中心とする公的機能と併せ、民間活力の活用により、賑わいと魅力ある拠点の形成を目指していきます。

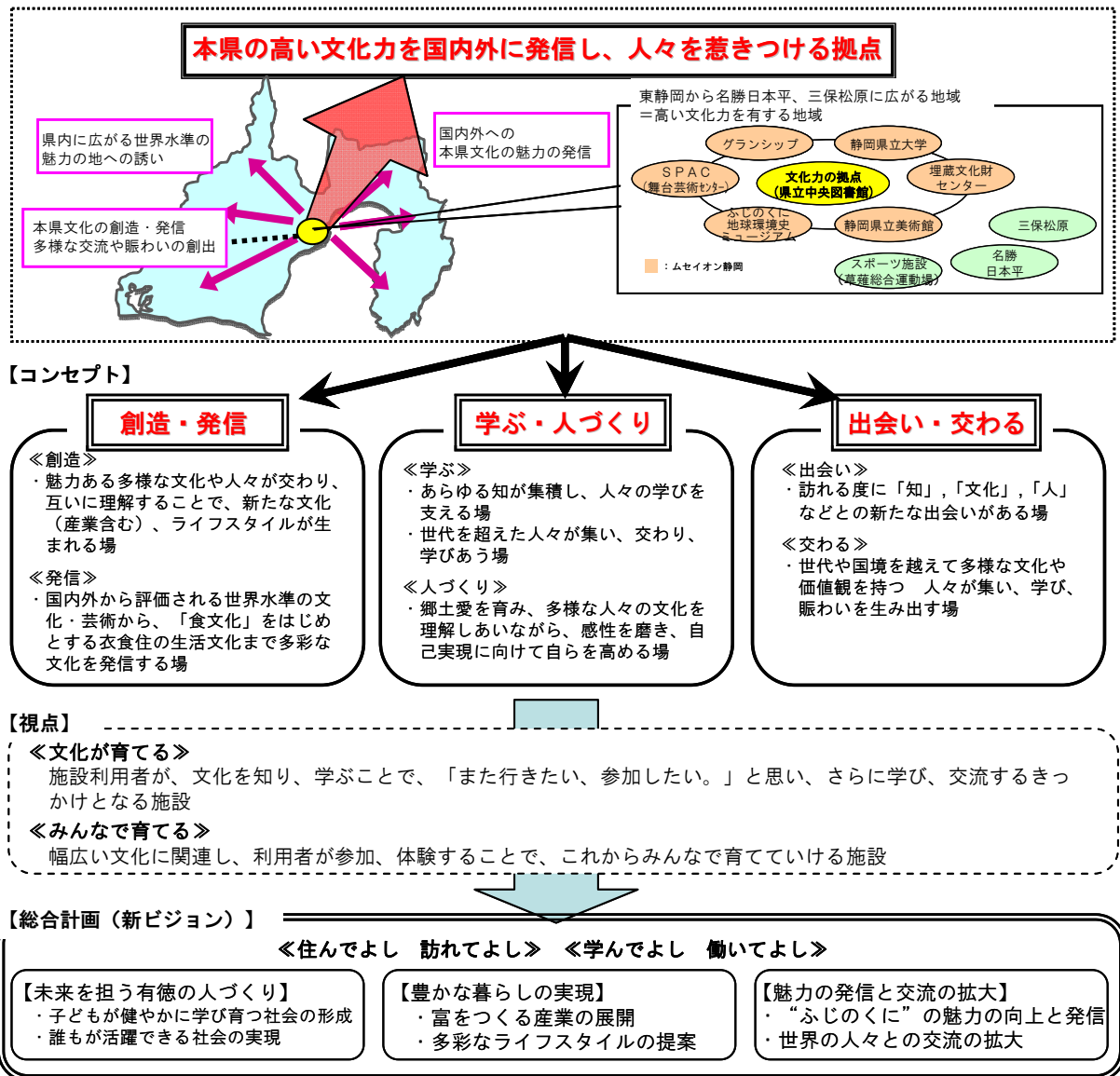


参図1 計画地及び現県立中央図書館の概要

2 「文化力の拠点」のコンセプト

「文化力の拠点」には、県立中央図書館を中心とした公的施設のほか、商業・飲食等の民間施設を導入し、周辺には緑地・広場などの整備を予定しています。この場において、本県の「文化」を発信するとともに、「人」と「人」が出会い、にぎわいや交流により、新たな文化やライフスタイルを創造し、本県の未来を担う人材を育成する施設を目指していきます。

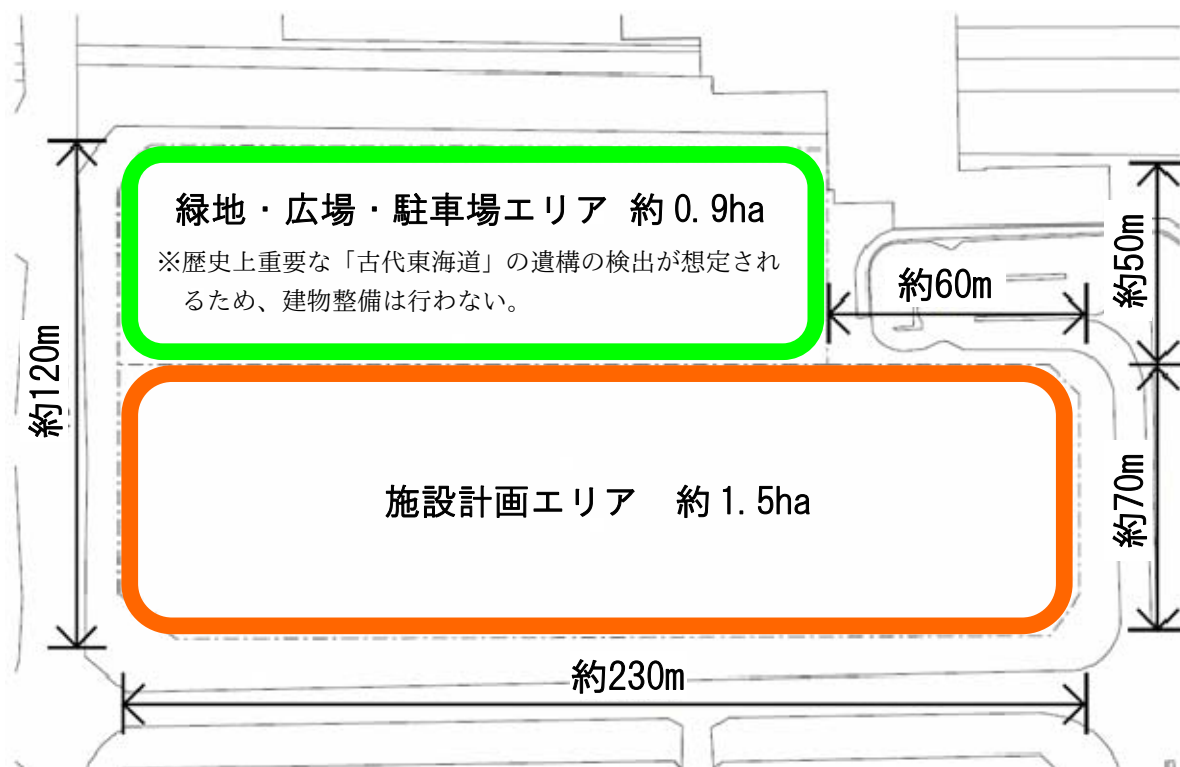
県では、「文化」の範囲を、「芸術」「技芸」「芸能」のみではなく、衣食住をはじめとする暮らしの全般にわたるものとして考えています。



参図2 「文化力の拠点」の目指す姿、コンセプト

3 施設計画

計画地は、古代東海道の遺構が検出される範囲を包含しています。遺構の検出が想定される北側の範囲では、建築物の建設が制限されるため、「緑地・広場・駐車場エリア」として活用し、南側の1.5haを「施設計画エリア」として整備する計画とします。



参図3 施設計画の前提条件

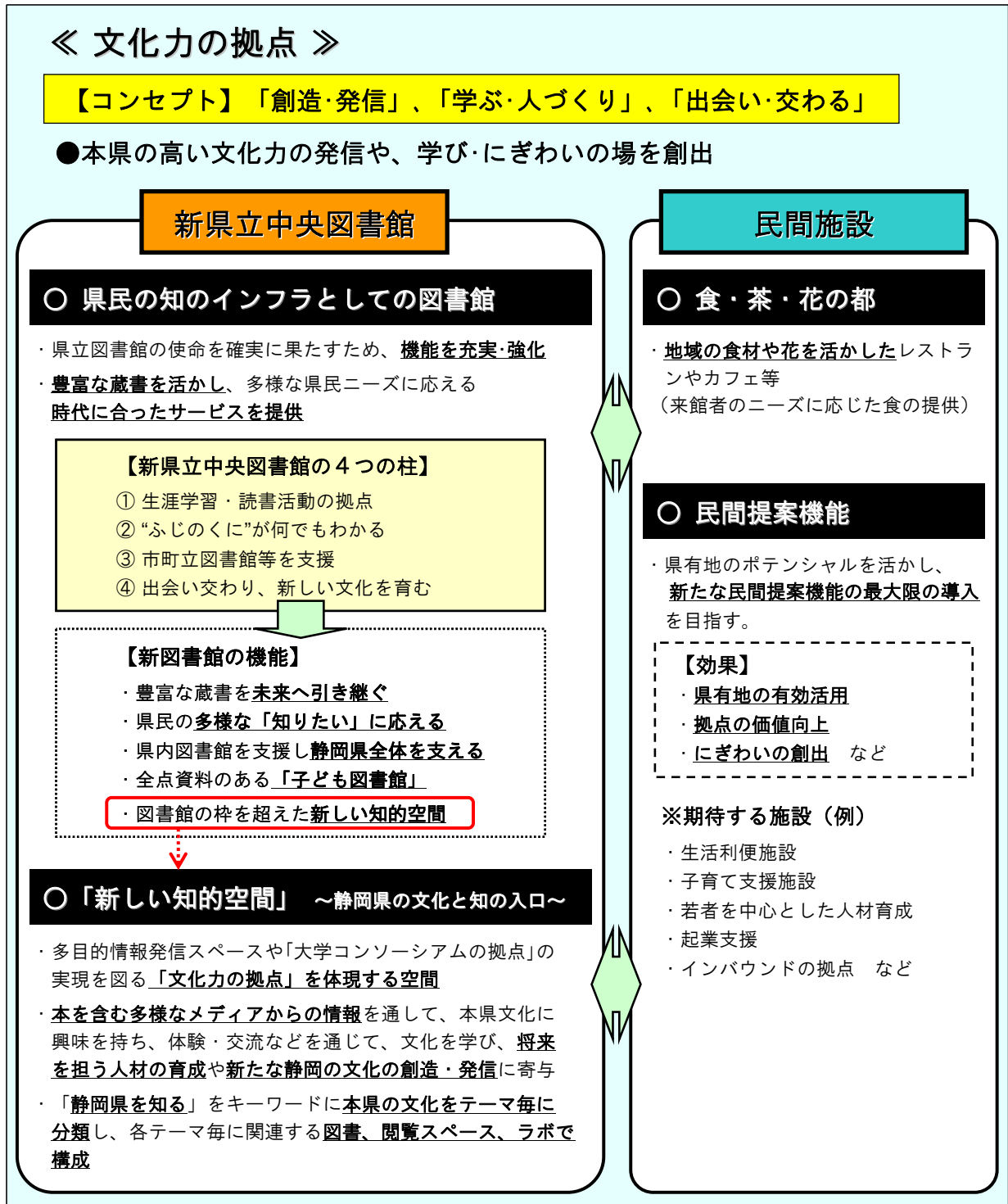
また、「文化力の拠点」基本計画（案）などを踏まえ、施設整備に係る主な方針を以下に示します。

- 「文化力の拠点」の核となる県立中央図書館を含む公的施設及び民間施設、隣接するグランシップなどが連携し、相乗効果を高め、多くの人々に利用される集客力の高い施設整備を目指します。
- 「文化とスポーツの殿堂」として、県都静岡の新しい都市拠点にふさわしい美しく風格のある建築形態とします。
- 東静岡駅から「文化力の拠点」施設に直結する歩行者連絡橋（ペDESTリアンデッキ）を設置し、歩行者動線を確保します。
- 東静岡駅南口地区の景観の調和を意識し、グランシップと同程度の高さを目指します。

4 「文化力の拠点」への導入機能

基本計画（案）に掲げる機能のうち、全館移転となる県立中央図書館を中心とし、本県の高い文化力の発信や、若者の学び・にぎわいの場が創出できる機能を先行して導入します。

また、県有地の有効活用を図るとともに、拠点の価値向上やにぎわいの創出、利用者の利便性向上に資する新たな民間提案機能の最大限の導入を目指します。機能間の相乗効果により、交流促進やにぎわい創出への好循環が生み出されるよう配慮します。



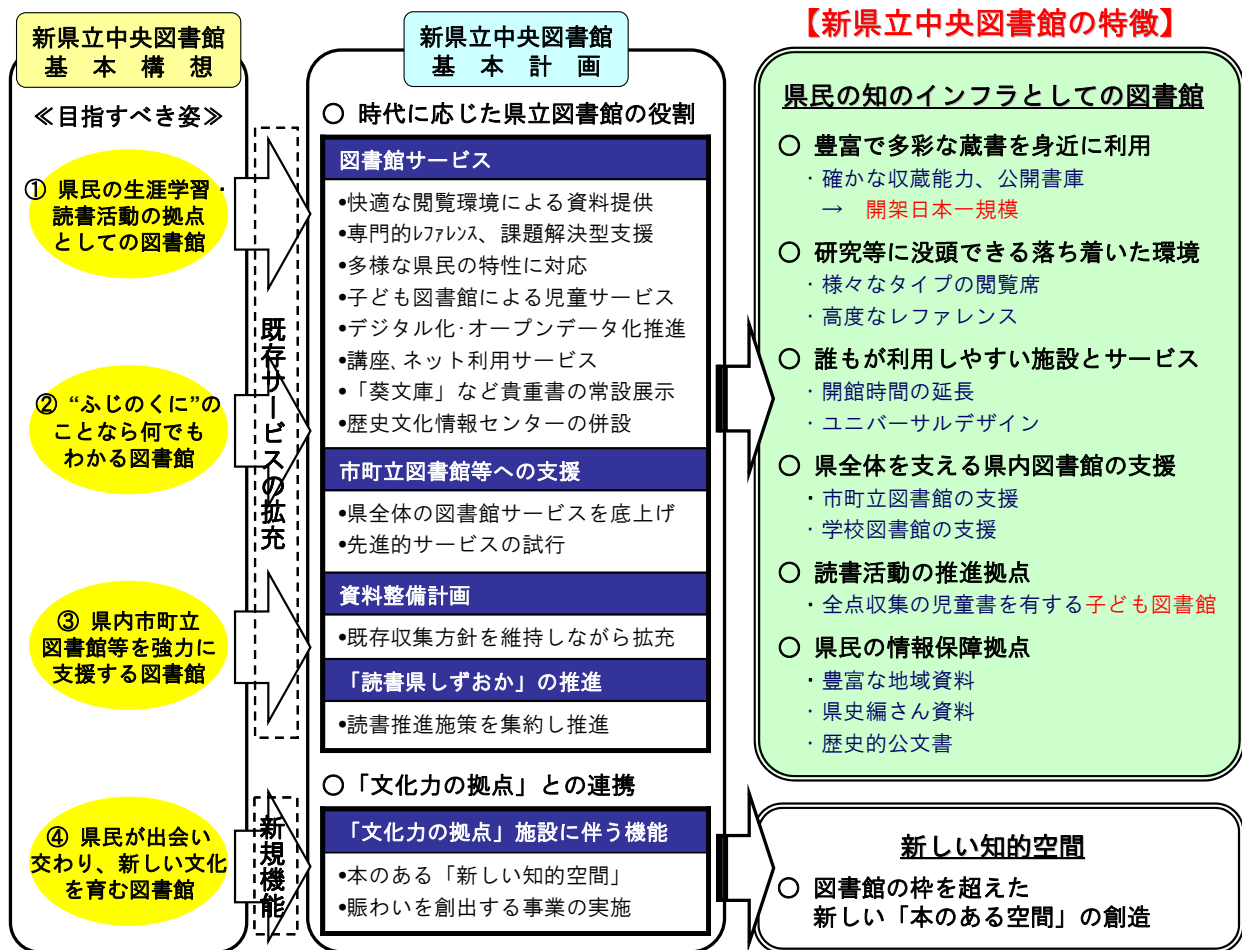
参図4 「文化力の拠点」への導入機能の概要

5 公的機能の内容

(1) 新県立中央図書館

新たな県立中央図書館は、「新県立中央図書館基本構想」（平成 30 年 3 月）及び「新県立中央図書館基本計画」（平成 31 年 3 月）に基づき、これまでの図書館の機能を充実・強化するとともに、豊富な蔵書を活かした多様な県民ニーズに応える時代に合ったサービスを提供します。

これにより、「県民の知のインフラ」としての使命を果たしつつ、「文化力の拠点」の 3 つのコンセプト全ての実現に寄与する、新しいタイプの図書館とすることを目指します。

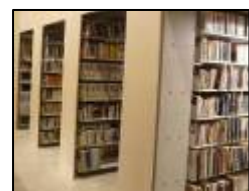


参図 5 新県立中央図書館の概要

【新県立中央図書館の主要なサービス】

① 豊富な蔵書を身近に利用できる快適な閲覧環境

県立図書館ならではの豊富な蔵書を快適に利用できるように、様々なタイプの閲覧席を用意し、気軽な利用から調査研究の利用まで様々なニーズに対応します。また、公開書庫に入って膨大な蔵書に囲まれながら、直接手に取って本を選ぶ醍醐味も提供します。



② 疑問や課題に答えるレファレンスや課題解決型サービスの充実

県立図書館としての特性を發揮し、県民の課題を解決するレファレンスサービスを提供します。学術的な研究調査だけでなく、日常の疑問や地域の課題を解消できる場所になるよう、生活に密着した課題解決型サービス（ビジネス・産業支援等）も併せて提供します。



③ 「子ども図書館」の設置

子どもが本に親しみを持ち読書が好きになるよう、「子ども図書館」を設置します。子どもに直接サービスを行う「児童室」と、子どもの読書に関わる保護者等へ情報提供などを行う「子ども図書研究室」を備えることで、包括的なサービスを実施します。



【来館者が多い県立図書館との比較】

※*印は「日本の図書館統計と名簿 2017」による

県名 (所在市)	施設概要	来館者数増につながる特徴
岡山 (岡山市)	来館者数 104 万人/年 (全国 1 位) ・人口 192 万人 (岡山市人口 70 万人) ・蔵書冊数 135 万冊* (図書収容能力 230 万冊)	●アクセスの良さ JR 岡山駅から車で 10 分、岡山県庁前 ●豊富な蔵書 新刊本の 7 割、児童書の全点を購入 ●充実したサービス 6 つの部門別に窓口と専門司書を配置
山梨 (甲府市)	来館者数 91 万人/年 (全国 2 位) ・人口 83 万人 (甲府市人口 19 万人) ・蔵書冊数 65 万冊* (図書収容能力 110 万冊)	●アクセスの良さ JR 甲府駅から徒歩 3 分 ●にぎわい創出の取組 イベントスペース、ホール、交流ルーム、 カフェなどでイベントを実施
現時点 の想定 静岡 (静岡市)	来館者数 100 万人/年 + α ・人口 369 万人 (静岡市人口 70 万人) ・蔵書冊数 82 万冊* (図書収容能力 170~200 万冊)	●アクセスの良さ JR 東静岡駅から徒歩 1 分 コンベンション施設に隣接 ●豊富な蔵書 収集資料の充実、全点収集の児童書を有する「子ども図書館」の新設 ●充実したサービス 高度なレファレンスサービスの提供 ●にぎわい創出の取組 交流スペース、多目的ホール、ラーニング グコモンズ、カフェなどでイベントや活動を実施

(2) 新しい知的空間

基本計画（案）において、本県の魅力ある世界遺産、食・茶・花の都、文化施設、文化財、伝統工芸などの“ふじのくに”の「文化力」を発信する機能として位置付けた「多目的情報発信スペース」は、単なる展示による情報発信にとどまらず、図書館の豊富な蔵書等を活かしながら、本県の文化と知を創造・発信する「新しい知的空間」として、県立中央図書館と一体的に整備します。

「新しい知的空間」は、図書を含む多様なメディアからの情報等を活用し、体験・交流などを通じて、文化を学び、将来を担う人材の育成、新たな静岡の文化の創造・発信に寄与する、「文化力の拠点」を体現する空間とすることを目指します。

参表1 「新しい知的空間」の内容

区分	内容
①テーマ別スペース	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単なる展示による情報発信にとどまらず、図書館の豊富な蔵書を活かし、本県の魅力ある文化と知を創造・発信 ○ 「静岡県を知る」をキーワードに本県の文化を複数のテーマに分類し、各テーマは、「関連する書架・閲覧スペース、ラボ」を基本として構成
書架・ 閲覧スペース	○ 専門書から新書、雑誌まで幅広い図書を配架 (自由に閲覧や雑談が可能)
ラボ	○ 大学・企業の研究者や学生等、様々な立場の方々が自由に議論可能 (ガラス張り小部屋)
②大学コンソーシアムの拠点 (グローバル人材育成拠点)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「グローバル人材育成懇話会」からの提言を踏まえ、将来の本県を支え、世界に貢献するグローバル人材を育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 語学教育や地域学の共同実施 ・ 外国人留学生の支援や、留学生と日本人学生、地域等との交流の場
③オープン コラボレーション スペース	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「新しい知的空間」ラボ活用者の交流の場 ○ ラーニングコモンズ ○ 「新しい知的空間」・図書館関連のイベント等スペース (特定多数を対象、オープン空間が望ましいもの等) (展示会、体験会、トークイベント、公開討論会、大会、公演等)
④多目的ホール・ セミナールーム	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「新しい知的空間」・図書館関連のイベント等スペース <ul style="list-style-type: none"> ・ 多目的ホール (講演会、フォーラム、シンポジウム 等) ・ セミナールーム (セミナー、発表会、ワークショップ 等)

「今までにない新しい知的空間」 ～静岡の文化と知の入口～

○本県の文化と知を創造・発信する「文化力の拠点」を体現する空間

⇒多目的情報発信スペースや大学コンソーシアムの拠点、食・茶・花の都などを、一体的な空間の中で実現

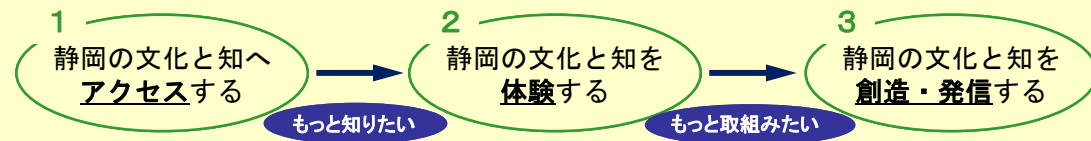
○本を含む多様なメディアからの情報に加え、体験や交流からの学びを通じて、新たな文化を創造する人材を育成

●「静岡県を知る」をキーワードに分類

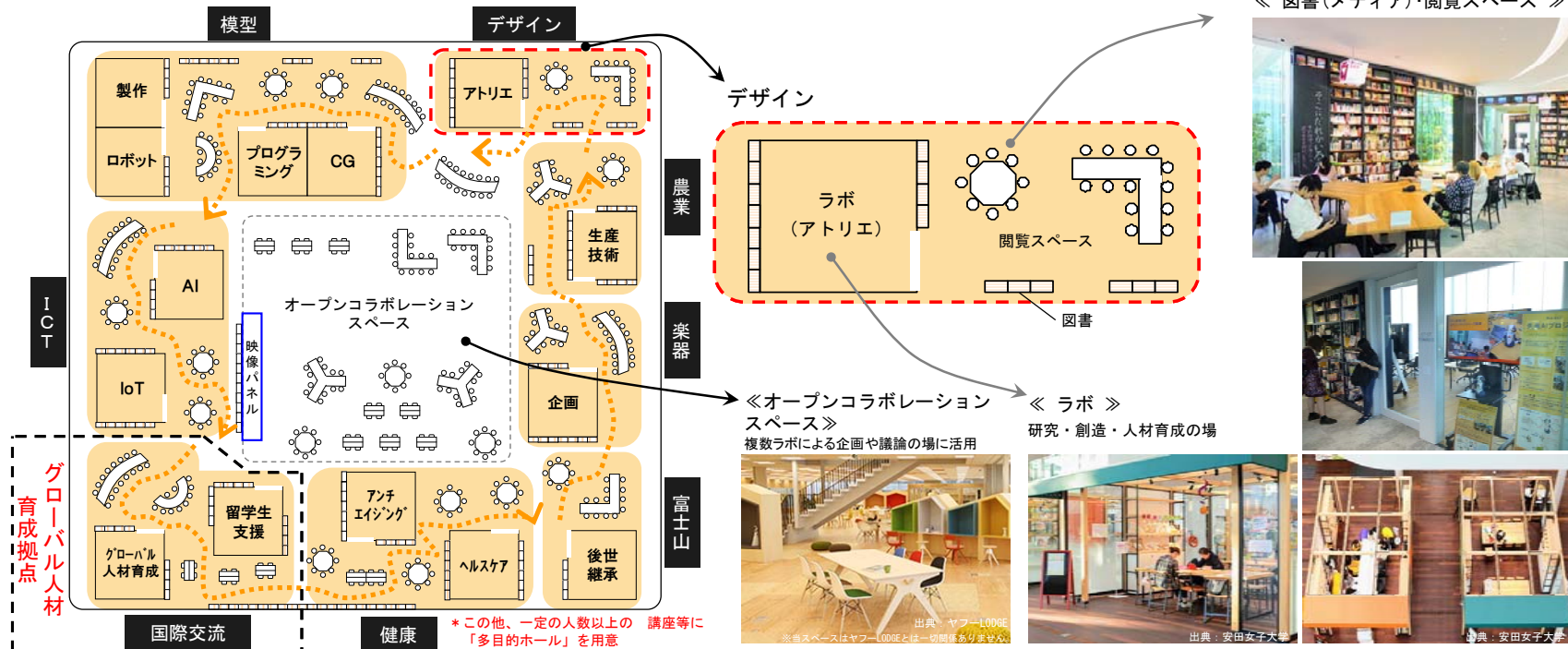
【テーマ(例)】

- ・模型×静岡県
- ・デザイン×静岡県
- ・ICT×静岡県 …

●本(マンガを含む)や映像から、体験や交流を通じて、人材育成に



【空間イメージ】 各テーマ別スペースと、オープンコラボレーションスペース等から構成



【テーマについて】

テーマについては、富士山、模型など本県が国内外に誇るべき文化に加え、ICTなど今後将来に向けて創造すべき新たな文化の観点も踏まえ、設定します。具体的なテーマの設定、内容は、平成31年度に策定する「新しい知的空間」管理運営計画の中で検討していくこととし、決定後においても、時勢の変化を踏まえて逐次更新していきます。

参表2 想定されるテーマ（イメージ）

区分	テーマ	設定の視点
本県が国内外に誇るべき文化	模型	全国の約9割という圧倒的シェアを誇るプラモデル生産
	食・茶	多彩で高品質な農林水産物を生産する食材の王国
	富士山・世界クラス	世界遺産「富士山」をはじめとする、本県が有する世界クラスの人材・資源群
	観光	世界文化遺産、伊豆半島ジオパーク、南アルプス、浜名湖など、国内外の人を惹き付ける多くの魅力ある地域資源
	ものづくり	楽器の一大産地、オートバイ生産の一大拠点ほか、本県が誇る各種地場産業
今後将来に向けて創造すべき新たな文化	ICT	AI、IoTなど第4次産業革命を見据えたICT人材の育成
	健康	アンチエイジング、美、ヘルスケアなど健康産業の創生
	デザイン	デザインによる製品・サービスの高付加価値化や地域の魅力向上
	農業	ICTやロボット技術などを活用した、本県のより生産性の高い農業への転換と人材の育成
	グローバル人材育成	国際的な視点を持ち、世界に貢献するグローバル人材の育成

【ラボについて】

書架・閲覧スペースに隣接して設置する小部屋である「ラボ」は、それぞれのテーマについて、大学・企業の研究者や学生など、様々な立場の方々が自由に議論できる場とします。

参表3 想定されるラボでの活動（イメージ）

活動区分	内容	具体例
学習	講座、講習、文化継承	【模型】オリジナル作品作り方講座 【ICT】企業と大学生共同の課題解決型ゼミ 【ICT】トップICT人材による小中高生集中講座
企画（研究）	議論、実験、試験、試作、栽培、創作	【デザイン】3Dプリンターで作品製作 【農業】農産物の栽培キットによる野菜栽培
体験	提供、試食、販売、製作、制作	【健康】アンチエイジング、美をテーマした健康測定体験（体組成、肌年齢等） 【デザイン】デジタルアート体験コーナー
相談・支援	各種窓口	【デザイン】デザイン相談窓口（企業の相談窓口、デザイナーのアドバイス） 【ICT】ICT人材マッチングのコーディネート

(3) 大学コンソーシアムの拠点（グローバル人材育成拠点）

基本計画（案）に位置づけた「大学コンソーシアムの拠点」は、「グローバル人材育成懇話会」の提言（平成30年4月）を踏まえ、将来の本県を支え、世界に貢献するグローバル人材を育成する機能を中心とし、これを効果的に推進するため、「新しい知的空間」と一体的に整備することとします。

グローバル人材育成拠点として、語学教育や地域学の共同実施や外国人留学生の支援を行うとともに、留学生と日本人学生、地域などとの交流の場を提供します。

また、県内高等教育機関の教育連携を進めるための教育研究の場を提供するとともに、若者の学び・にぎわいの創出に向け、異なる大学の学生間の幅広い交流や学生活動を支援する機能も果たしてまいります。

参表4 「グローバル人材育成懇話会」提言（平成30年4月）

機能	求められる取組
学生等交流	学生間交流、留学生と地域との交流、企業との交流
留学生支援	生活支援、就職支援、留学生ネットワーク化
語学教育・地域学の教育機能	日本語教育等支援、単位互換を活用した地域学の展開、社会人向け公開講座の開催
留学情報等発信	日本人学生向け留学情報提供、県内大学情報提供

(4) AI・ICTの拠点

「第4次産業革命」とも呼ばれるAI、IoTなど先端技術の急速な進展の中、これに対応できる人材や企業を確保・育成する必要があるため、ICT企業等が入居して交流や集積などを進めるスペースや、セミナーの開催など情報発信を行うスペース、ICTに係る教育・体験用のスペース等を整備することで、AI・ICT拠点の形成を図ってまいります。

参表5 AI・ICTの拠点の内容【例示】

区分	内容
ICT企業交流・集積スペース	<ul style="list-style-type: none"> ICTベンチャー等の入居 起業や経営に係る相談 意見交換や打合せなど異業種等の交流
ICT関連情報発信スペース	<ul style="list-style-type: none"> セミナーやワークショップ等の開催 ICTを駆使した映像や音声などの先端的技術・芸術の発信
ICT教育・体験スペース	<ul style="list-style-type: none"> 学生や在職者を対象としたICT関連講座の開設 IoT技術導入機器等を用いた実習や職業訓練

6 県が期待する民間提案機能の内容

(1) 拠点の価値向上、にぎわいの創出などに資する機能

土地の利用条件を最大限活用し、基本構想や基本計画(案)に掲げる「創造・発信」、「学ぶ・人づくり」、「出会い・交わる」の3つのコンセプトを実現しつつ、拠点の価値向上やにぎわいの創出、利用者の利便性向上に資する民間機能の提案を期待します。

「文化力の拠点」の中心となる県立中央図書館、本県の文化を創造する「新しい知的空間」、グローバル人材育成の機能を持つ大学コンソーシアムの拠点などの公的施設との連携を図ることで、相乗効果が発揮される機能を期待します。

《 民間提案を期待する機能 》

- 生活利便施設（スーパーマーケット など）
- 子育て支援施設（こども屋内広場 など）
- 若者を中心とした人材育成（専門学校（ICT系、デザイン系）、語学学校、学習塾、サテライトキャンパス（県内外大学） など）
- 起業支援（コワーキングオフィス、シェアオフィス、レンタルオフィス など）
- 世界クラスの資源群や食・茶・花の産地、各種文化施設等に誘うインバウンドの拠点（ホテル など）

(2) 食・茶・花の都

「文化力の拠点」利用者に加え、地域住民などの利用も想定し、本県の食材や花を活かしたレストランやカフェのほか、県内農林水産物の販売施設の導入を期待します。

併せて、花と緑があふれる「ふじのくに『花の都』しずおか」の発信に向け、本県産の多彩な花々での施設内外の装飾を求めます。

参表6 「食・茶・花の都」での提案を期待する施設内容・規模

区分	期待する規模感の目安※(㎡)	内容	
フードコート	700	設置必須	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な価格帯や幅広いジャンルに対応し施設利用者が訪れやすい場所 ・宗教や信条等、多様な食文化に対応したメニューを提供（ハラール対応など） ・新規出店希望者のためのチャレンジスペースを設置
フラワーカフェ	100	設置必須	<ul style="list-style-type: none"> ・「食・茶・花」を同一の空間で楽しめるカフェ ・県産の季節の花で店内を装飾 ・県産食材を使った料理や静岡茶を提供
物販	200	実施必須	<ul style="list-style-type: none"> ・新鮮な地場野菜や、レストラン、フードコートで使用している県産食材等を販売 ・常設店舗でもマルシェ等の定期的なイベントでもよい
レストラン	200 × 4店舗程度	設置必須	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的な知名度が高く、県外からも集客が見込める地元の名店 ・食の都仕事人等による県産食材を使用した料理を楽しむことができるレストラン ・新鮮な地場野菜や季節ごとの県産食材、静岡茶を使った料理やスイーツを提供 ・県産食材を使ったアンチエイジングメニューを提供
花の装飾	—	配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・屋内外を県産の花で装飾

※県が期待する規模感を示しているが、具体的な設置規模は民間提案による。



≪ フードコート（イメージ） ≫

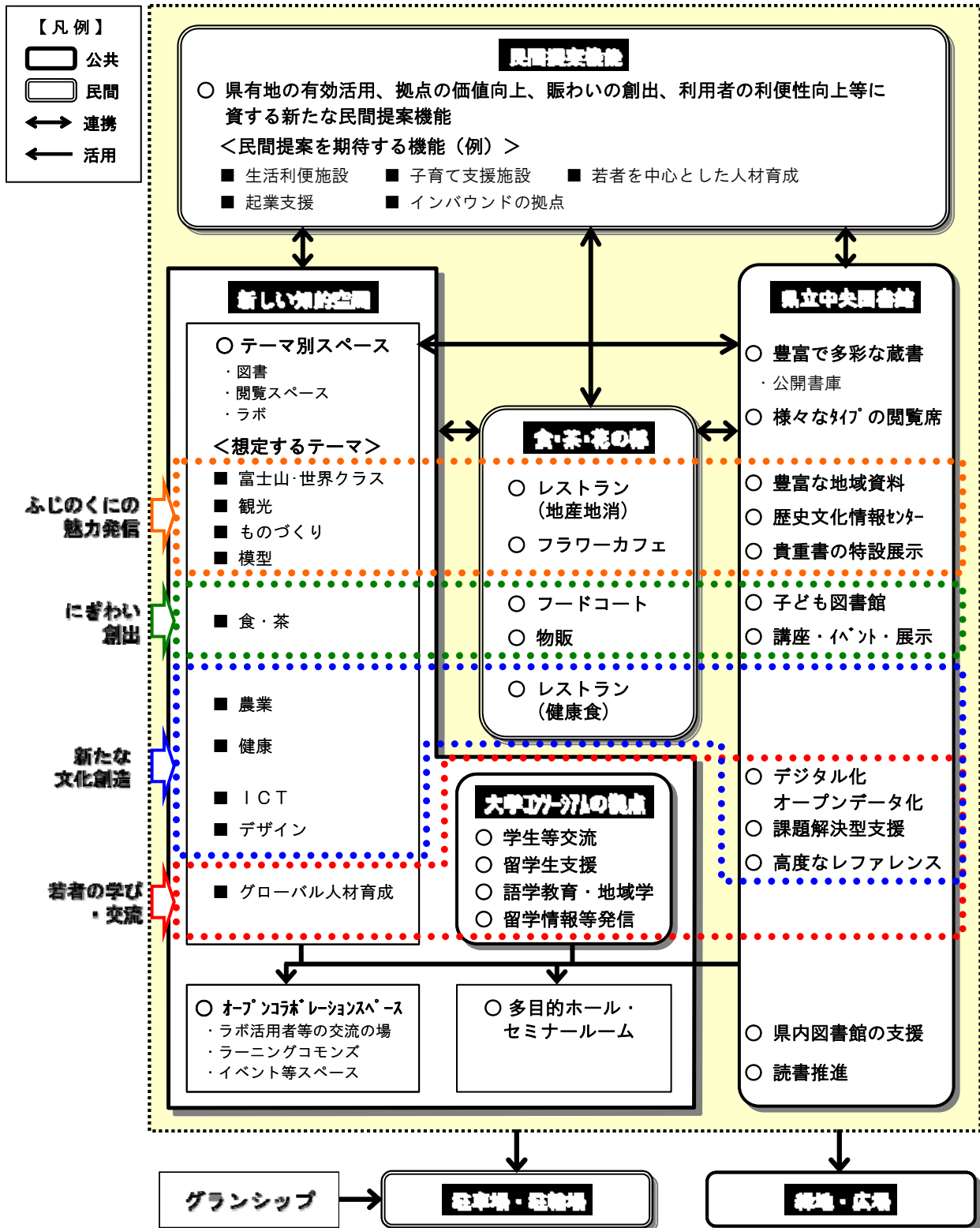


≪ フラワーカフェ（イメージ） ≫

7 機能相関図

「文化力の拠点」への導入機能の機能相関図は以下のとおりです。

なお、機能相関図は、本事業で整備する機能の互いの関係をわかりやすく示すための図であり、実際の規模や配置を示しているものではありません。



8 東静岡駅南口エリアの将来イメージ図（※先行整備時点）

※あくまでイメージであり、実際の施設配置・内容(規模、デザイン、仕様等)を示すものではありません。

